

インターンシップ等実務者研修会

追手門学院大学のキャリア形成支援 プログラムの構築 ーインターンシップ・PBLの拡充ー

社会学部長

小畑力人

産業界ニーズGP評価委員長

就職・キャリア支援課

大串恵太

インターンシップ・キャリア教育担当

苦闘2年、しかし、今なお課題山積！

2014. 6. 27



© OTEMON GAKUIN UNIVERSITY 2014 All rights reserved

まずは、大きな話から・・・。
大学教育改革をめぐるこの間の動きと
キャリア教育・インターンシップの「捉え」

学士課程教育の構築に向けて 2008中央教育審議会答申



大学教育の質的転換 2012中央教育審議会答申

キャリア教育の義務化 2011大学設置基準の改正

就業力育成GP 2010～

産業界ニーズGP 2012～

**今日の大学教育の「質的転換」を踏まえた、
キャリア教育の構築と
インターンシップの展開の必要！**

追手門学院大学 キャリア教育プロジェクト 2012～

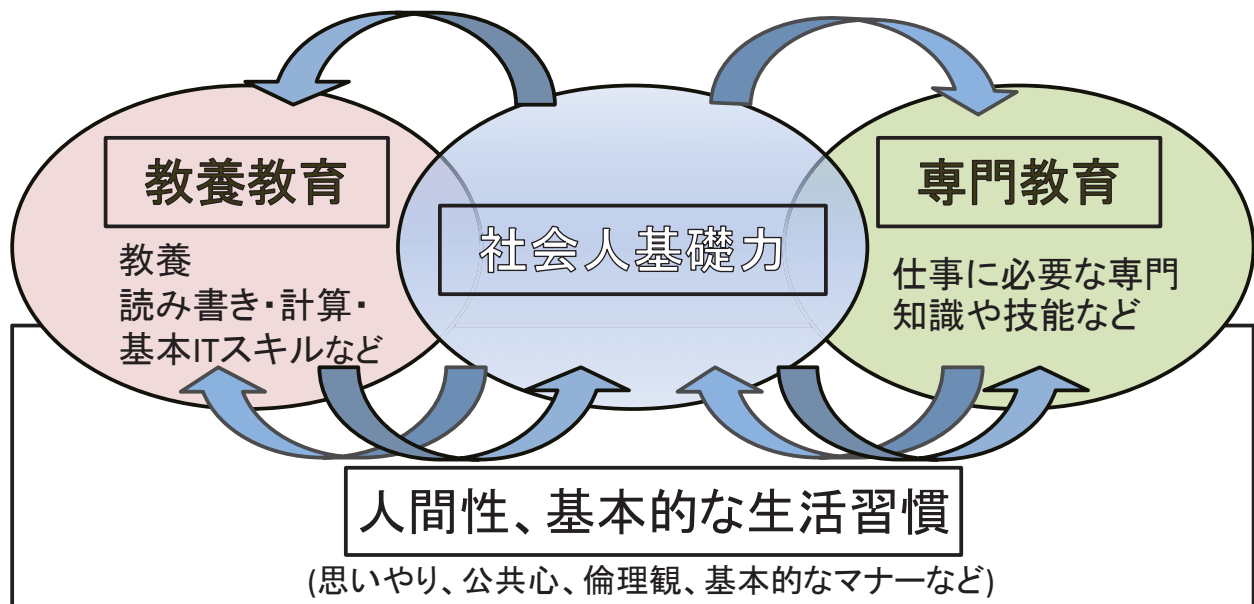
キャリア教育・就職支援特別委員会 2013～



就業力

3

- 社会人基礎力は就業力の一部、社会で活躍するには基礎学力・教養と専門知識が必要。学士課程4年間の学修を通じて就業力を培う。



「経済産業省(2010)『社会人基礎力 育成の手引き』河合塾」より

4

PBL

■ PBL(Project-Based Learning)とは、学生が学んだ知識を利用して、プロジェクトとしての課題解決にあたる実践型の学習

- プロジェクト: 到達すべきゴールがあり、かつ、複数の人に関わる取り組み
- PBLには唯一の正解や不正解はない
⇒ 成功・失敗はある

PBLの特徴: ①Driving Questionからの活動がスタート、②真正な活動に参加、③協調的な活動、④テクノロジーの支援、⑤具体的な成果

出典)Krajcik,J.S. &Blumenfeld,P.(2006).Project-Based Learnig.In Sawyer,R.K.(Ed), the Cambridge Handbook of the Learning Sciences.New York

アクティブラーニング

授業者からの一方的な知識伝達型の授業（学習者の受動的な学習）でなく、学習者の能動的な学習を取り込んだ授業の転換を目指す教育政策用語。「アクティブラーニング型授業」等として使用されるべきである。

溝上慎一氏(2012PCカンファレンスのレジメより)



AL型授業を高める装置(授業)

- 書く、話すというアウトプットの活動(コメント用紙、レポート、ディスカッション、討論、プレゼンテーションなど)
- さまざまな他者(学生同士、教員、専門家、地域住民など外部者など)の視点を取り入れ、自己の理解を相対化させる。
- 宿題・課題を出す(授業外学習)
- 新たな知識・情報・体験へアクセスさせる(調べ学習・体験学習)
- リフレクション(形成的・総括的評価)
- 多重評価(小テスト、質問、プレゼンテーション、学生同士のピア評価など)



溝上慎一氏(2012PCカンファレンスのレジメより)

世界的な教育・学習戦略の転換

<知識伝達型>



<双方型>

前提 知識の範囲が設定できる

問題が設定できる

環境 知識の制限ないし独占

知識へのフリーアクセス

方法 教え込み型
(パッシブラーニング)

双方向型
(アクティブラーニング)

学習動機 試験
(ここが試験にでる...)

問題に対する興味
(自分でやってみよう...)

評価 客観的試験が有効
ペーパー試験、○×試験

ルーブリック評価が有効
達成度評価、論述試験(口頭試問)

長所 体系化が容易・効果的

動機付けが容易

短所 動機付けが難しい

体系化に工夫が必要

必然としての戦略転換、後戻りはできない

小笠原正明 2013,12,6 大阪大学「日本のTA制度の現状と課題」のPPTから

人づくりは、国づくり。教育再生への取組み始まる～ 教育再生実行会議

平成25年5月28日教育再生実行会議から第3次提言

「これからの大学教育等の在り方について」

1. グローバル化に対応した教育環境づくりを進める
2. 社会を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくりを進める
3. 学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能を強化する
4. 大学等における社会人の学び直し機能を強化する
5. 大学のガバナンス改革、財政基盤の確立により経営基盤を強化する

大学の教育・研究機能の質・量の充実を目指し、平成29年までの5年間で「大学改革実行集中期間」と位置づけ、具体策を検討し実行していきます。

現状の打破、課題解決をめざして・・・。 キャリア教育プロジェクトの検討

■ キャリア教育の現状・問題点と課題

初年次教育から始まる体系的なキャリア教育を如何にして構築するか

* 4年間の学修とキャリア形成「就業力」の定義

* インターンシップ・PBLの拡充

ープログラムとしての学士課程教育の構築ー

■ キャリア・サポートの現状・問題点と課題

一人ひとりの学生に届く支援体制を如何にして確立するか

* キャリア教育とキャリア・サポート(進路・就職支援)の統合的展開

* 教員の教育・相談・指導と教職協働による体制の確立

課題: 学生による学生のためのサポート・ピアエデュケーション

目標: 全ての学生の「出口保障」.....

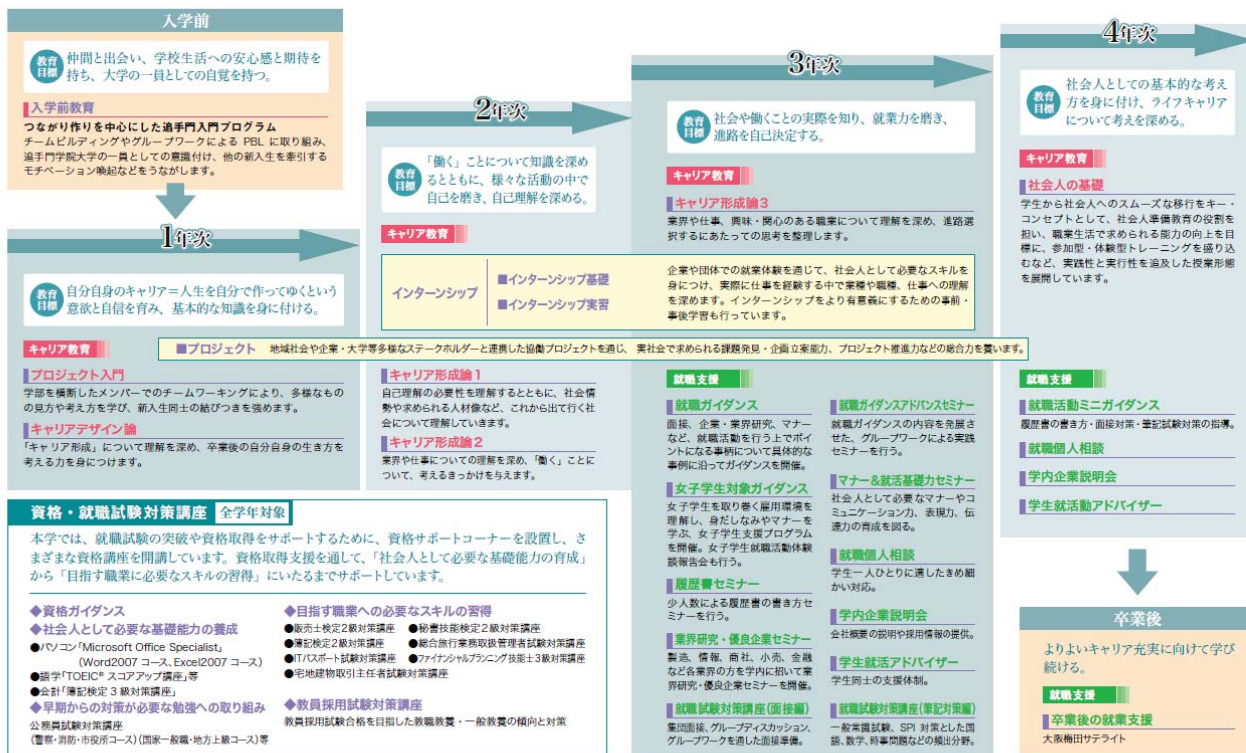
入学前・入学から卒業・卒業後までエンrollment・マネジメントの実現



就職・キャリア形成支援プログラム

Career development program for employment

充実したキャリア教育により、職業について理解し、社会で活躍するために必要な力を習得します。



インターンシップ科目の改善

改定前

(3年次春学期開講)

科目名:インターンシップ1

授業形態: 講義形式

内 容: IS事前学習

(3年次秋学期開講)

科目名:インターンシップ2

授業形態: 講義形式

内 容: IS事後学習

履修生 201名 ※インターンシップ1と2はセット履修とし、同じメンバーが履修

実習先 108社 ※履修生全員が大学が直接協定を結んだ実習先へ

改定後 (2014年度より)

(2・3年次春学期開講)

科目名:インターンシップ基礎

授業形態: 講義形式

内 容: IS事前学習

履修生 360名

※「基礎」のみの履修が可能

手続き円滑化のためのガイダンス

(2・3年次秋学期開講)

科目名:インターンシップ実習

授業形態: 15回の講義形式ではない

内 容: 実習+事後学習・成果報告会

履修生 240名弱? ※「実習」のみの履修も可

実習先 120社強? ※外部機関、自由応募もあり

演習(小集団教育)・キャリア形成科目と インターンシップ<事例:社会学部>

春学期(4月~7月)

1年:「新入生演習」

●学びのデザインシート

2年:「基礎演習」

『キャリア形成論Ⅰ』

▽インターンシップ

3年:「専門演習」

『キャリア形成論Ⅲ』

▽インターンシップ

4年:就活

「卒論演習」

就職ガイダンス

<検討課題>

■インターンシップの単位認定と
キャリア形成関連科目の単位数

秋学期(9月~1月)

1年:「表現演習」

『キャリアデザイン入門』

2年:「基礎演習」

『キャリア形成論Ⅱ』

▽インターンシップ

3年:「専門演習」

就職ガイダンス

▽インターンシップ

4年:就活

「卒論演習」

『社会人の基礎』

<課題>

■キャリア科目の講義担当者

コーディネート型インターンシップの推進

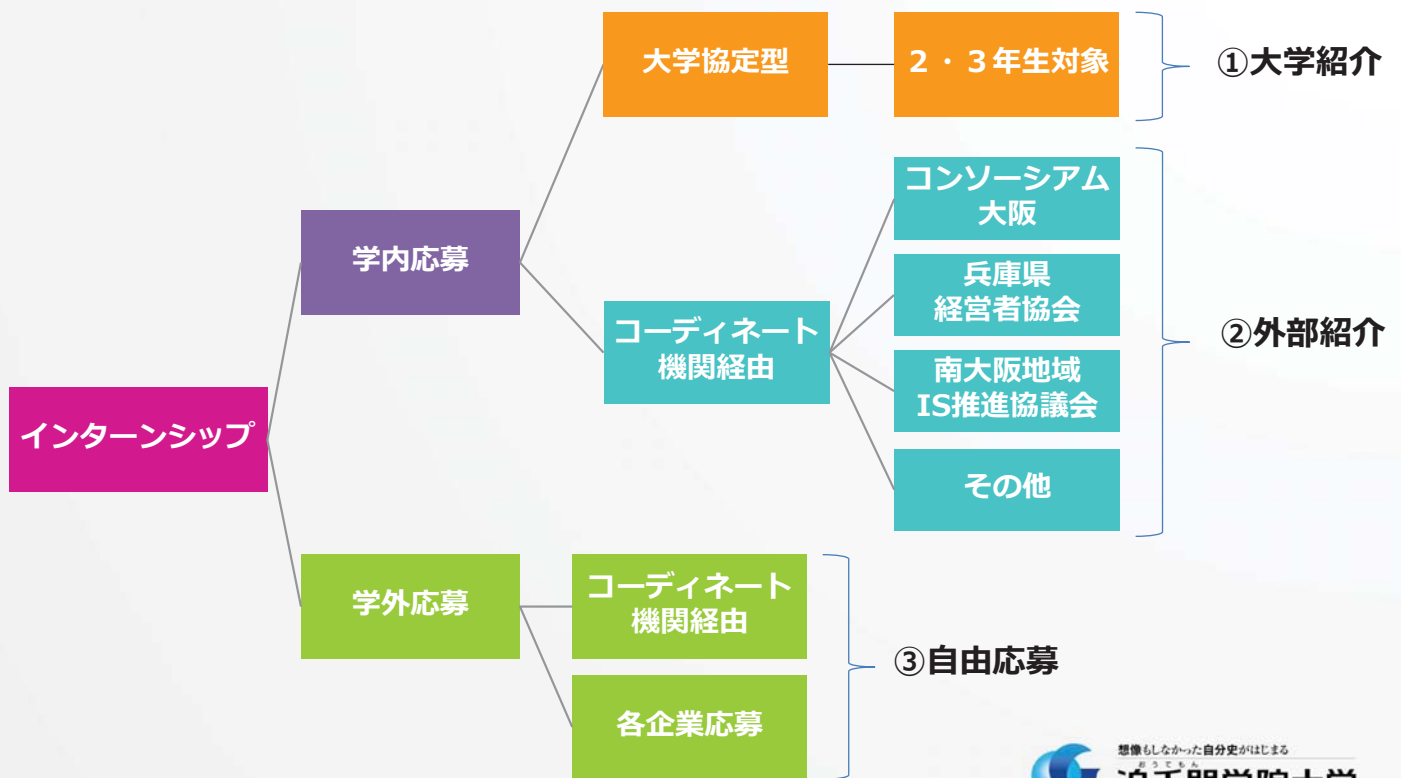
取り組み事例① インターンシップ

インターンシップの概要

追手門学院大学のインターンシップは、企業や団体での就業体験を通じて、社会人として必要なスキルや考え方を身につけ、実際に仕事を経験する中で業種や職種、仕事への理解を深めることをねらいとして行っている。

- 2000年度から経営学部において正課としてスタート。
- 2001年度には全学部の3年生を対象に実施。
- 2013年度実績では、201名の学生が108事業所の実習に参加。
- 2014年度には対象を2年生にも拡大し、240名弱（見込）の学生が実習に参加予定。

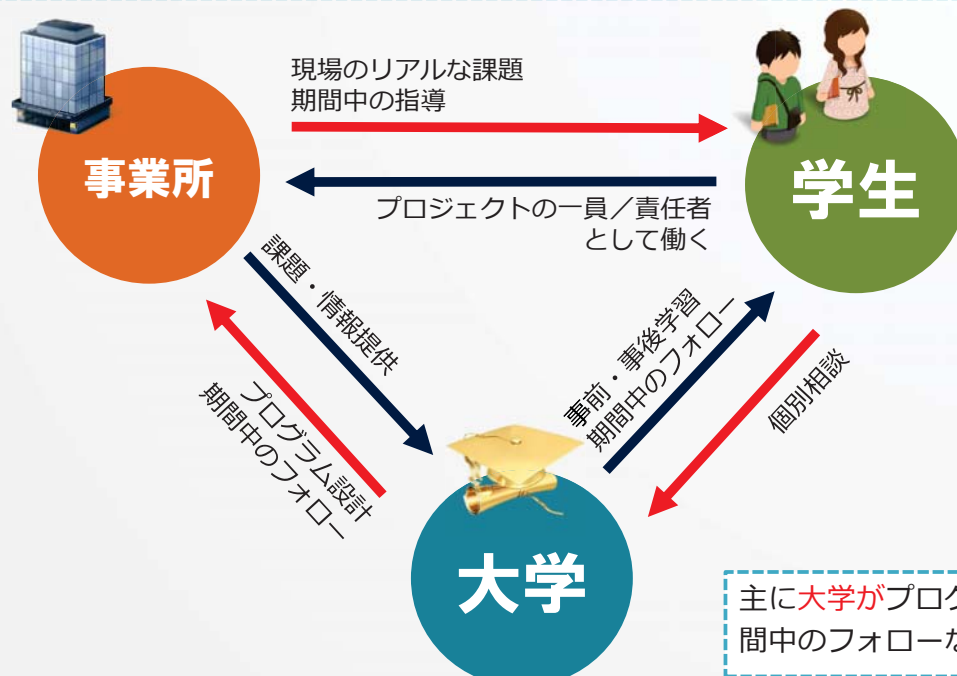
インターンシップの3分類



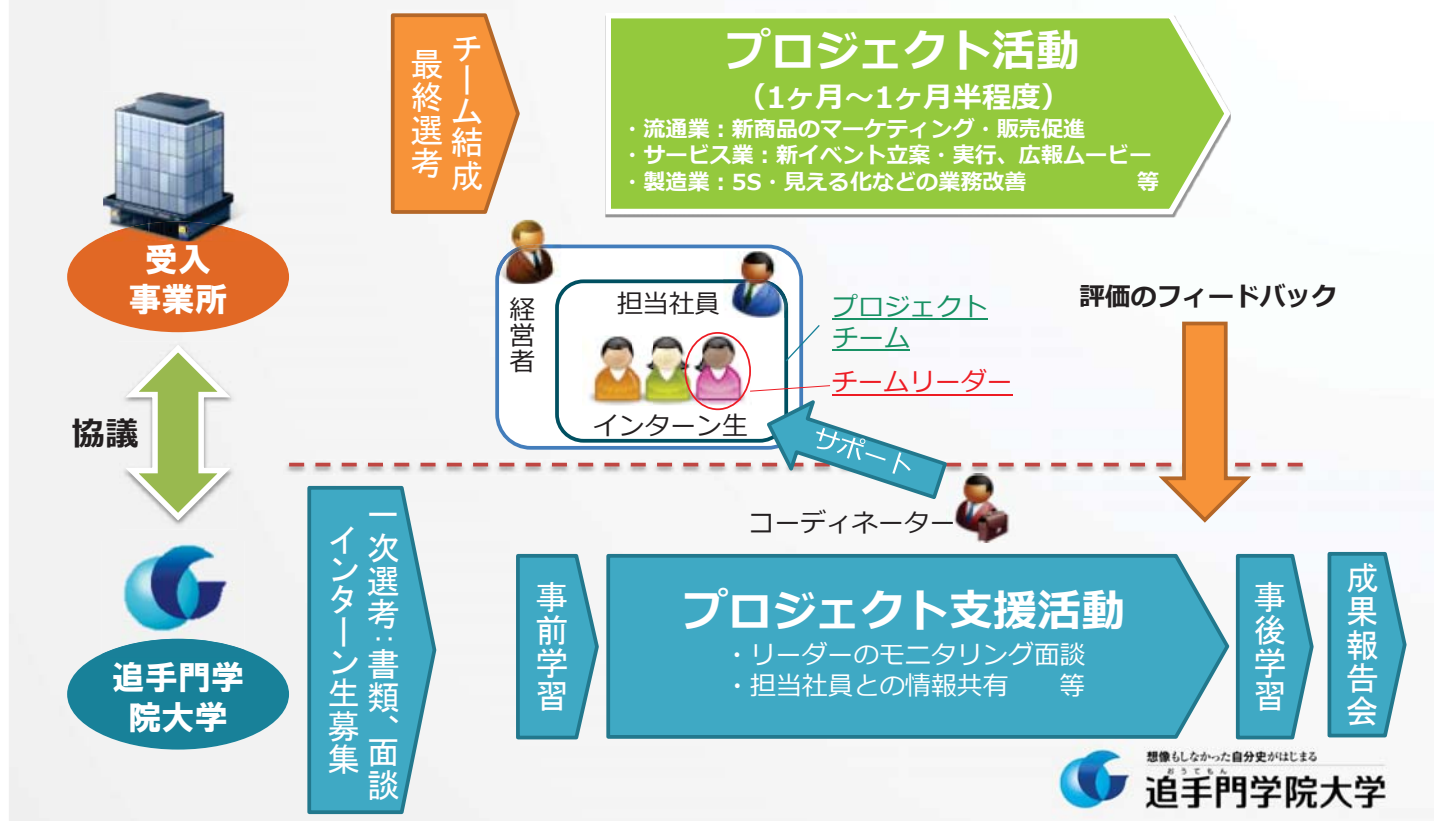
コーディネート型インターンシップ

受入事業所の“リアルな課題”に取り組む実践型のインターンシップ。

学生は社会で求められる力を養うことができ、受入事業所にとっては自社の課題解決につながる、**双方にとってメリット**のあるプログラムを設計する。



インターンシップ受け入れ～修了までの流れ



プログラムの提案ポイント

受入事業所にとっての「第二領域」的な仕事、
= 「普段やりたいと思っているができていないこと」
の中から、
「学生だからこそ取り組めること」をプログラム化する。

緊急性	緊急	緊急でない
重要性	△	◎
重要でない	△	×

プログラム例

パターン①

- ・ テストマーケティング
- ・ 新規事業のトライアル

パターン②

- ・ 取材、インタビュー、記事等作成
- ・ 顧客等へのヒアリング

パターン③

- ・ 企画立案、実行
(イベント企画運営、業務改善提案など)

受入先開拓

- 職員が主に受入先開拓とコーディネートを行う
- 茨木商工会議所と連携し、地元の会員企業との接点づくり

茨木商工会議所



追手門学院大学



追手門学院大学

コーディネート事例

茨木
地域情報
もっと詳しく、もっと楽しく。

茨木のキラリと光るお店を
発掘・発信せよ！
茨木市内の魅力的なお店
発掘、取材プロジェクト

株式会社キャッチアップ



志をもってはたらく大人の
“想い”を引き出す！
地域密着型サービスの
理念浸透ツール作成プロジェクト

特定非営利活動法人いばらき



かゆいところに手が届く！？
ネットショップを立ち上げろ！
インテリア関連商品の
ネットショップ企画運営プロジェクト

丸蔵株式会社



教習生の“生の声”を活かした
スクールバスを目指す！
教習所の送迎スクールバス
利便性向上プロジェクト

茨木ドライビングスクール



ミライ企業
プロジェクト

魅力的な中小企業と
学生のかけ橋になる！
学生に知られていない魅力的な
中小企業発掘、取材プロジェクト

株式会社シーズクリエイト



大阪通天閣公認キャラクター
「ビリケンさん」をプロデュース！
ご当地キャラクター
Webプロモーションプロジェクト

天創堂株式会社



学生のココロを動かす
新卒採用ツールを作成せよ！
IT企業 新卒採用ツール作成
プロジェクト

株式会社エクス



“非日常”な時間と空間を
提案する！

宴会・パーティー・イベント会場検索
サイトのユーザー獲得プロジェクト！

株式会社ローカルアンドパーティー

追手門学院大学

学習効果を向上するために

①なぜ“リアルな課題”が必要なのか？

- ・ 受入事業所側に直接的なメリットがないと継続しにくい
- ・ リアルな課題だからこそ本気の関わり・フィードバックが期待できる

②インターンシップでの経験を 大学での学びにどのようにつなげるか？

- ・ 専門と直接結びつかなくても、大学での学修のプロセスと実践現場での経験の結びつきを学生自身に気付かせるようにアプローチする

全学部全学年対象のPBL科目の設置

取り組み事例② プロジェクト

プロジェクト(2014年度新規開講科目)

地域の企業や団体などさまざまな人と関わり合いながら、プロジェクトの目指す成果を実現するために、チームで課題解決に取り組む科目です。

座学型の授業とは異なり、自分たちが主体となって、現場に行き、手足を動かし、頭を働かせて、“実際に起こっている”課題の解決に取り組みます。

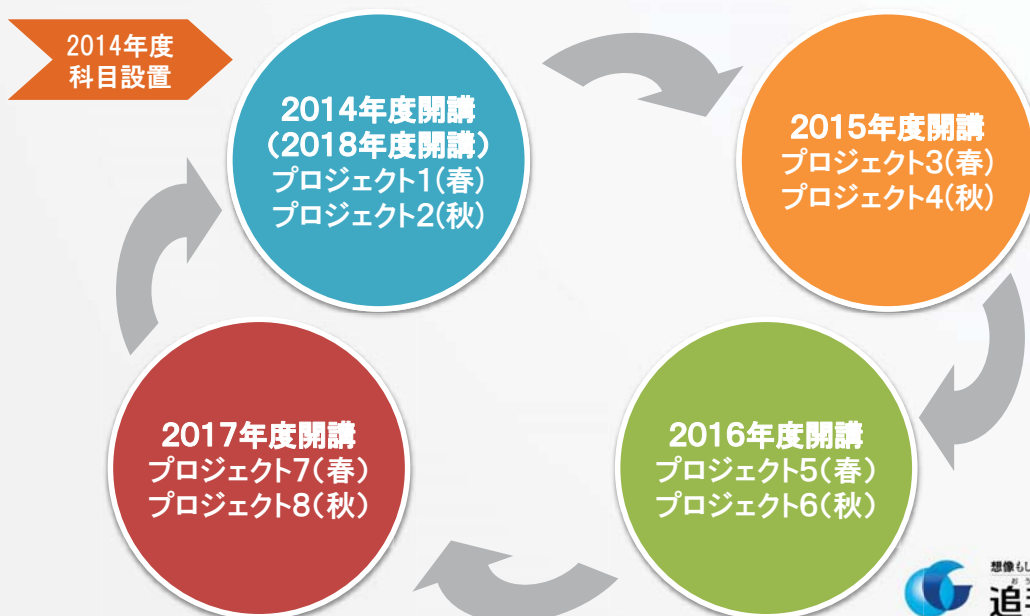
チームメンバーと協力して一つのを創り上げたり、実社会で働く大人と関わったりしながら、課題発見・解決力やコミュニケーション力、チームワークなどの社会で求められる力を培うことができます。

(2014年度学生募集ビラより)



科目配置および履修方法

科目名は連番式だが、それぞれ独立の科目で、先修条件はない。
 新入生は、その年度に開講している科目から履修が可能となるので、
 例えば2015年度入学生はプロジェクト演習3、4から履修が開始することになる。
 4年間で全てのプロジェクトを履修することも可能。
 なお、プロジェクトごとにクラス名を割り当てる(A、B等)。



2014年度募集プロジェクト



**「学生の視点」を
経営に活かす！**
マーケティングで大阪・茨木を
活性化するプロジェクト

通年



**追大ミツバチ
プロジェクト**
ミツバチから人と人、
人と自然のあり方を学ぶ！

春秋



**誰もが安心して
外出できるまちへ！**
トイレ利用困難な方のための
トイレマップ作成プロジェクト

春



**茨木童子
地域貢献プロジェクト**
茨木の活性化のために、
「茨木童子」をさらに活躍させよ！

春



**茨木の商店街を
アートに変える！**
阪急本通商店街の文化デザイン
企画立案プロジェクト

秋



**阪急茨木市駅前の
過去を学び、未来を描く！**
阪急茨木市駅前地区
活性化プロジェクト

秋



**茨木は、
まち全体が
ミュージアム！**
茨木ミュージアム構想プロジェクト

秋



**あの先生に、
このテーマで、
こんな授業を！**
学生発案型授業プロジェクト

秋

今後の課題と展望

【インターンシップ】

- 成果報告会・受け入れ先との意見交換会の充実
- 専門との関連性を強化した
インターンシッププログラムの開発
- 認定型インターンシップ制度の仕組みづくり

【プロジェクト】

- 学生発案型、外部提案型プロジェクトの実施

【全般】

- 担当者（教職員）、コーディネート専門人材の育成
- 教職協働体制の確立

メモ